



<スウェーデン>

## 持続可能性の範囲内にある 知的財産：欧州連合からの 観点

Rouse

Principal **Fabrice Mattei**

Principal **Dr. Isabel Cantallos Fiol**

EUは、2050年までに気候中立（climate-neutral）になることを目指しています。この目標は、欧州グリーン・ディール（European Green Deal）の核となるものであり、2015年の気候変動に関するパリ協約に基づく「EUの国が決定する貢献（National Determined Contribution）」に沿うものです。

欧州委員会は、グリーン移行に適合し、EU企業の競争力を支援するために、知的財産制度を構築したいと考えています。最初の兆候は、2023年1月5日に発効された企業サステナビリティ報告指令（CSRD）に見られます。それは、非機密の知的財産は全て、持続可能性にもたらす価値という観点から評価され、報告されるべきであるということです。CSRDはまた、現行の情報開示規則の欠点に対処することによって、企業に対する「グリーンウォッシング」批判について応えています。

この文書により、欧州は、開示基準の国際的競争の最前線に立つことを望んでいます。CSRDの特徴の一つは、報告書に非機密の知的財産を含めることです。これは、知的財産は持続可能な開発目標（SDGs）に合致しており、商業的影響だけでなく社会的・環境的影響を生み出すために利用できるというWIPOの見解を補強するものです。

しかしながら、どのようにすれば知的財産戦略とSDGsを最大限に整合させることができるかについて、企業が持つ知識は未だ限られています。本稿は、知的財産決定に持続可能性を取り入れる方法としてSDGs-IP canvasを示すことによって、このギャップを埋めることを目的としています。

### 1. SDGs と知的財産

気候変動を含む、世界的規模での持続可能性の課題に取り組もうとする企業は、

通常はビジネスモデル、革新的な製品やプロセス、ブランドと組み合わせたサービスを通じて取り組みます。この点において、知的財産は、創造性及びイノベーションのための重要な動機付けであり、国連の目標、特に SDGs の 2、3、4、6、7、8、9、12、13、17 を達成する上で重要な役割を果たします。

図1



## 2. SDGs-IP canvas

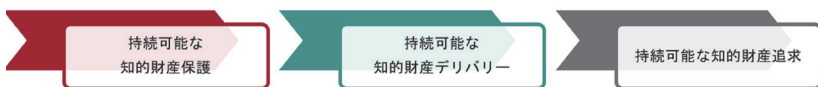
本稿では、最も一般的に使用される3つの知的財産権である特許、商標、意匠に焦点を当てます。植物品種保護、伝統的知識及び地理的表示のようなその他の知的財産権もSDGsに関連しています。各知的財産権は、以下の表1に見られるように、3つの異なる価値を包含します。知的財産実務家の方は「法的価値」の概念には精通している一方で、残りの2つの価値についてはあまりご存じないかもしれません。

|      | 法的価値                           | カーボンバリュー                    | 市場価値   |
|------|--------------------------------|-----------------------------|--|
| スコープ | 模倣困難性<br>潜在的な侵害品に対する回復の段階      | 炭素集約度<br>気候変動へのプラス影響／マイナス影響 | 取引価値<br>炭素排出権取引制度における知的財産権の価値 (例) 排出量取引制度 (ETS) 市場 |
| 指標   | エンフォースメント・アクション<br>(例) 刑事上の救済等 | 二酸化炭素換算 / カーボンフットプリントの影響    | 二酸化炭素排出量1トン当たりの知的財産権の限界削減コスト                       |

表1 知的財産権の3つの価値

「カーボンバリュー」と「市場価値」に関しては、具体的な3つのタッチポイントで評価します。

図2



|                                      | 知的財産権 | 持続可能性が健全な知的財産戦略に統合されるタッチポイント  |  |   |
|--------------------------------------|-------|---|--|---|
|                                      |       | 持続可能な知的財産保護   | 持続可能な知的財産デリバリー   | 持続可能な知的財産追求   |
|                                      |       | 知的財産権を創造し保護する持続可能なプラクティス  | 有益な環境的影響を促進するための知的財産権の普及   | 知的財産権を追求する際の持続可能なプラクティス   |
| 知的財産権に関連するカーボンバリューと市場価値を評価する際に考慮する要素 | 特許    | 気候変動緩和技術に関する、欧州特許庁の分類スキーム「Y02」は、気候変動への対策と考えられる技術又は応用を対象としています。  | 特許の地理的保護範囲には、気候変動の影響を最も受ける国/地域を含めるべきです。<br><br>発明の可視性を高めるため、特に発展途上国のステークホルダーへのアクセスを容易にするために、柔軟なライセンス制度やWIPO GREENのようなプラットフォームを使用します。 | 知的財産権のエンフォースメントや気候変動問題を効率的に管理するために、修理、再利用、リサイクルのような活動には例外を設けることが有益です。<br><br>知的財産権のエンフォースメントは、侵害者を効果的に抑止しつつ、炭素への影響が最小限となる行動を優先すべきです。押収品の廃棄も、持続可能なプラクティスに従うべきです。このバランスを達成するために、CLIPMATE™のような専用ツールを使う必要があります。 |
|                                      | 意匠    | 意匠出願戦略は、循環型経済の一環として、製品を簡単に修理可能にするためのインセンティブを企業に与えるという目標に合致したものであるべきです。  | 意匠の持続可能性の特徴を確認し、検証するために、エコデザイン保護(EU)のようなラベルを使用します。<br><br>意匠の地理的保護範囲には、気候変動の影響を最も受ける国/地域を含めるべきです。                                    |   |
|                                      | 商標    | 固有の持続可能な価値の創造/保護を評価するということは、商標登録された商品・役務の指定記載を再検討することです。指定記載は、特定の製品の持続可能な特徴を示すにすぎません。例えば、バイオベースボトル、再利用可能なアイスキューブなどです。 | 商品・役務の指定記載は、商標の実際の持続可能な特徴を決定づけるものでなく、更に、知的財産権の「デリバリー」段階での検証が必要です。例えば、認証マークとの共同ブランディングは、商標の持続可能な影響を増幅させ、検証するのに役立ちます。                  |   |

表2

## 2.1 持続可能な知的財産保護

出願に記載された意匠、発明又は商標の固有の持続可能性は、通常、審査官を含む第三者が簡単に評価できる特性のものではありません。一般的に、市場は情報の非対称性が強いとされています。供給者が製品の背後にある生産チェーン全

体において完全な情報を保有している一方で、第三者は特許又はブランドについて読んだ後であっても製品の持続可能性を十分に体験できないためです。しかし、「Y02」や商品・役務の指定記載のようなタッチポイントがあり、理論上では、それらが持続可能な特徴を示すのに役立ちます。ただ、「Y02」や指定記載は、特許又は商標の実際の持続可能な特徴を決定づけるものではありません。例えば、欧州委員会は以下のことを明らかにしました。欧州で出願されたグリーン商標の半分は、証拠が不足しており、虚偽又は欺罔とみなされる可能性があり、そのため欧州法に基づく不正な取引慣行に関するケースとなる可能性があります。そのため、知的財産権の「デリバリー」というタッチポイントにおいて更なる評価が必要とされます。

## 2.2 持続可能な知的財産デリバリー

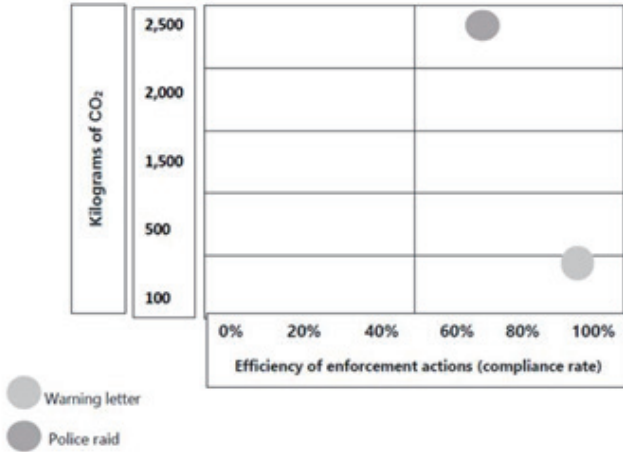
持続可能な知的財産デリバリーは、知的財産権に内在する価値がプラスの環境的・社会的影響のために様々なセグメントやチャンネルにどのようにして繋がるかという観点において、持続可能なプラクティスについて検討します。例えば、特許の側面では、発明の特徴や気候変動の影響を受けやすい地域への効果的な普及について検討することによって、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「気候変動に具体的な対策を」、「安全な水とトイレを世界中に」といったSDGsに対処するために必要な技術的イノベーションとの適合性を評価することができます。

## 2.3 持続可能な知的財産追求

持続可能な遂行を検証するには、診断、修理、リサイクル及びメンテナンス等の行動を制限する知的財産戦略が、どのように気候変動対策を阻害するかを評価することが必要です。加えて、二酸化炭素排出量を最小限に抑えながら知的財産エンフォースメント・アクションを優先させること、環境への影響を十分に認識しながら知的財産戦略を実行することが重要です。

CLIPMATE™のような知的財産カーボンフットプリント計算機は、SDGs-IP canvasの将来性を証明することに役立ちます。知的財産専門家の方々は、IPポートフォリオ内の持続可能な機会を発見するために、そして、収集した情報を活用して価値の推進要因や阻害要因を特定するために、これらのツールを利用することができます。下記の例は、CLIPMATE™ツールで作成したものであり、炭素への影響と全体的な効率性に関する刑事摘発と警告書の比較を表すものです。

図3



### 結論

循環型経済における知的財産の未来は、より柔軟で、協力的で、世界に焦点をあてたアプローチによって特徴づけられるでしょう。この進化には、法的枠組みの変更だけでなく、ビジネス戦略の変更も必要とします。我々がこれらの新しいフロンティアを切り開く中で、知的財産と持続可能性の相互作用が、近い将来、知的財産資産を評価する上での重要な要素となることに疑いはありません。

< Sweden >

## **IP within the Realm of Sustainability : Perspective From the European Union**

Rouse

Principal **Fabrice Mattei**

Principal **Dr. Isabel Cantalops Fiol**

The EU aims to be climate-neutral by 2050. This objective is at the heart of the European Green Deal and in line with the EU's National Determined Contribution under the Paris Agreement on Climate Change ("CC") of 2015.

The EU Commission wants to develop an IP regime to fit for the green transition and support EU businesses' competitiveness. A first sign is found in the Corporate Sustainability Reporting Directive ("CSRD") which entered into force on 5 January 2023 according to which all non-confidential IP should be assessed and reported from the point of view of the value it brings to sustainability. The CSRD also responds to criticisms made against some corporations for "greenwashing" by addressing shortcomings in the current disclosure rules.

With this text, Europe wants to be at the forefront of the international race to disclosure of standards. One of the features of the CSRD is the inclusion of non-confidential IP in the reporting. That reinforces WIPO's view that IP, aligned with Sustainable Development Goals ("SDGs"), can be used to create not only commercial, but also societal and environmental impact. However, companies' knowledge about how to best align IP strategies with SDGs remains limited. This article aims to address this gap by presenting an SDGs-IP canvas as a way to incorporate sustainability into IP decisions.

### **1. SDGs & IP**

Companies that attempt to address global sustainability challenges, including climate change, usually do it through business models, innovating products and processes, services paired with brands. In this regard, IP is a critical incentive for creativity and innovation which plays an important role in meeting the United Nations, in particular SDGs 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 12, 13 and 17.

Fig.1



2. SDGs-IP Canvas

In this article we focus on the three most commonly employed IPRs : patent, trademark and design. Nonetheless, numerous other IPRs are pertinent to SDGs such as Plant Variety Protection, Traditional Knowledge and Geographical Indications. Each IPR encompasses three distinct values as outlined in Table 1 below. While IP practitioners are well-versed in the concept of ‘legal value’, they may be less acquainted with the remaining two values.

|         | Legal value   | Carbon value  | Market value  |
|---------|---|---|---|
| Scope   | Inimitability<br>Resilience level against potential infringements | Carbon intensity<br>Positive/negative impacts on climate change | Trading value<br>Value of IPRs at carbon emission trading schemes (e.g. Emissions Trading System (ETS) markets) |
| Metrics | Enforcement actions (e.g. criminal remedies etc)                  | CO2-eq / carbon footprint impacts                               | Marginal abatement cost of IPRs per metric tone of CO2-eq   |

Table.1 Three values of IPRs

With respect to “Carbon Value” and “Market Value”, we assess them at three specific touchpoints :

Fig.2



|   | IPRs              | Touchpoints where sustainability can be integrated into a sound IP strategy   |   |  |
|---|-------------------|---|---|--|
|   |                   | Sustainable IP Protection<br>Sustainable practices in creating & protecting IPRs  | Sustainable IP Delivery<br>Dissemination of IPRs to foster a beneficial environmental influence   | Sustainable IP Pursue<br>Sustainable practices in pursuing IPRs  |
| Factors to consider in assessing the carbon and market value associated with an IPR | <b>Patent</b>     | The EPO's classification scheme for climate change mitigation technologies, "Y02", is directed to the technologies or applications which can be considered as countering the effects of climate change.   | The geographical protection coverage of a patent should encompass countries/regions most affected by climate change.<br><br>Use of flexible licensing schemes and platforms like WIPO Green to enhance the visibility of inventions and facilitate their access to stakeholders especially from developing countries. | To effectively manage the enforcement of IPRs and CC issues, it's beneficial to incorporate exceptions for activities like repairing, reusing, and recycling.<br><br>Enforcement of IPRs should prioritize actions with the lowest carbon impact while effectively deterring infringers. The destruction of seized goods should also follow sustainable practices. |
|   | <b>Design</b>     | Design filing strategy should align with the goal of incentivizing companies to make their products easily repairable as part of a circular economy.  | Use of label such as Eco-design protection (EU) to affirm and verify the sustainability attributes of a design.<br><br>The geographical coverage of a design protection should encompass countries/regions most affected by climate change.   | The destruction of seized goods should also follow sustainable practices.  |
|   | <b>Trade mark</b> | Assessing the inherent sustainable value creation/protection is to review the specifications of goods/services for which a trademark is registered. The specifications give only an indication of the sustainable attributes of a particular product. For example, (e.g. biobased bottles, reusable ice cubes). | The specifications of goods/services are not conclusive of the actual sustainable character of a mark, further verifications are needed at the "delivery" phase of IPRs. For example, co-branding with a certification mark can help to amplify and verify the sustainable impact of a mark.                          | Achieving this balance necessitates using specialized tools like CLIMATE™.   |

Table.2

## 2.1 Sustainable IP Protection

The inherent sustainability of a design, an invention or a mark described in an application is typically not a property that third parties, including examiners, can easily assess themselves. Generally, markets are characterized by strong information asymmetries given that suppliers hold the full information on the whole production chain behind a product while third parties cannot fully experience the sustainability of products even after reading a patent or brand. However, there are touchpoints like "Y02" and specifications of Goods/Services to help indicating, in theory only, those sustainable properties. The "Y02" and specifications are not conclusive of the actual sustainable character of a patent or a mark. For example, the European Commission revealed that half of green marks filed in Europe lack evidence and may be regarded as false or



deceptive and may therefore be a potential case of unfair commercial practice under EU law. Further assessments are needed at the “delivery” touchpoint of IPRs.

**2.2 Sustainable IP delivery**

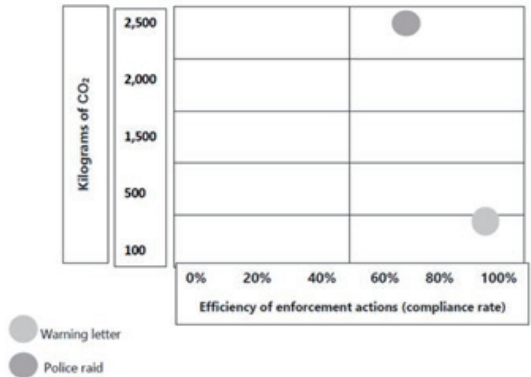
Sustainable IP delivery considers sustainable practices in terms of how the value captured within IPRs reaches different segments and channels for a positive environmental and social impact. For example, on the patent side, a review of inventions’ features and their effective diffusion to most climate change impacted areas will allow to evaluate their compatibility with the technological innovation needed for addressing some of the SDGs such as “affordable and clean energy”, “climate change”, “clean water and sanitation”.

**2.3 Sustainable IP pursue**

Examining the sustainability implications entails evaluating how IP strategies that limit activities like diagnosis, repair, recycling, and maintenance impede climate action. Additionally, it’s critical to prioritize IP enforcement actions with minimal carbon emissions and to implement IP strategies while fully cognizant of their environmental consequences.

IP carbon footprint calculators such as CLIPMATE™ can help future-proof an SDGs-IP canvas. IP specialists can use those tools to spot sustainable opportunities in their IP portfolios and use collected information to identify value drivers or inhibitors. The example below, utilizing the CLIPMATE™ tool, presents a comparison between a police raid and a warning letter concerning their carbon impact and overall efficiency.

**Fig.3**



### **Conclusion**

The future of IP in the circular economy will likely be characterized by more flexible, collaborative, and globally focused approaches. This evolution necessitates changes not only in legal frameworks but also business strategies. As we navigate these new frontiers, the interplay between IP and sustainability will undoubtedly be a key factor in valuing IP assets in the near future.